

重要課題 環境負荷の低減 地域社会への貢献

地域と連携した環境保全活動

PICK UP

森林保全活動

森林を育み、次世代につなげていく活動

ふるさとの自然を守り、一人ひとりができることをできる範囲で継続するという考えのもと、地域の皆様と一緒に、森林を育み、次世代につなげていく活動を行っています。役職員による実践的な森林保全活動や、地域のボランティア団体等との交流を通じて、森林保全の重要性や森林の現状を発信し、森づくりの輪を広げる活動に長年取り組んでいます。山陰発の地域と連携した銀行による森林保全活動の取り組みは全国運動に発展しています。



森林×脱炭素チャレンジ2022「優秀賞(林野庁長官賞)」を受賞

森林が有する二酸化炭素吸収機能に注目が集まる中、「企業等が自らまたは支援をして行ったカーボンニュートラルの実現に向けた森林整備を顕彰する」制度で、当行の長年の森林保全活動の取り組みが評価されました。

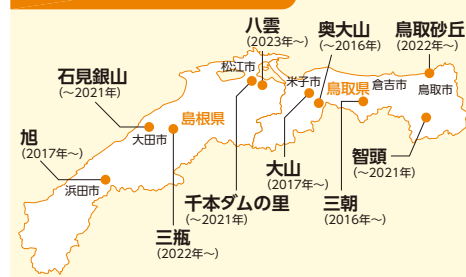


「ごうぎん希望の森」(2006年～)

山陰両県の森林で、当行の役職員や家族による実践的な保全活動を実施しています。山陰の大部分を占める森林を守り育てる活動をベースに、海・川の保全につながる活動を継続し、次の世代にその重要性・大切さを伝えていきます。



ごうぎん希望の森 分布MAP



森林保全活動延べ参加人数

10,774名

(2006年度開始から2023年6月末までの累計)

植樹した本数

19,080本

(2006年度開始から2023年6月末までの累計)

TOPICS

「ごうぎん希望の森・八雲」での活動開始(2023年5月)

2007年から2021年までの活動を終えた「千本ダムの里」以来、2年振りに島根県東部地区での活動を再開しました。八雲の地での森林再生の新たな歴史がスタートしました。



地域と連携した環境保全活動

地域と連携した森林保全活動の輪を広げる取り組み

森林を守ろう!山陰ネットワーク会議(2006年～)

山陰両県のボランティア団体やNPO法人等を会員とするネットワーク組織で、当行が事務局を担い、会員同士の交流や情報交換の機会を提供し、山陰両県内に森林保全活動の輪を広める取り組みを行っています。



会員数

50団体

(2023年6月末現在)

地域での清掃活動などの取り組み

「日本列島クリーン大作戦」(1997年～)

「小さな親切」運動の活動の一環として、山陰両県18カ所で開催の皆様とともに毎年海岸清掃活動を行っています。



延べ参加人数

71,500名

(1997年度の開始から2022年度までの累計)

宍道湖の水質保全への取り組み

ヨシ刈り取りボランティア(2013年～)

宍道湖水環境改善協議会が取り組まれている宍道湖の水質浄化を目的とした活動に賛同し、松江・出雲地区の行職員を中心にヨシ刈りのボランティアに参加しています。



「経団連生物多様性宣言イニシアチブ」への加盟(2022年6月)

経団連自然保護協議会および経団連が策定した「経団連生物多様性宣言」に賛同し、「経団連生物多様性宣言イニシアチブ」に加盟しました。生物多様性の重要性を認識した企業経営を推進する目的で宣言されたもので、当行も一企業としてこの宣言に賛同し、かけがえのない生態系を守り、豊かな自然とその恵みを将来世代に引き継いでいくことに努めます。



環境省と「国立公園オフィシャルパートナーシップ」締結(2021年3月)

国立公園オフィシャルパートナーとして環境省や自治体と連携し、環境保全への理解を深めるとともに、国立公園の利用者の拡大を図り、地域活性化に貢献してまいります。



国立公園
オフィシャルパートナー

取組内容

- 森林保全活動や海岸清掃等の実施(継続)
- ディスクロージャー誌等を活用した国立公園の魅力や情報の発信
- 当行主催セミナー・研修会等における国立公園関連情報の周知 など

TOPICS

刈り取ったヨシの有効活用

ヨシ紙名刺の印刷は、ごうぎんチャレンジドまつえの職員が行っています。

ごうぎんチャレンジドまつえについては P72



名刺にヨシを原料とするヨシ紙を使用しています。